

## アメリカフヨウ . . .



8号棟東面の植込みに、アメリカフヨウが淡桃色の見事な花を咲かせています。

アメリカフヨウは、米国アラバマ州の原産で、7～9月頃に直径20cmにもなる大きな花をつけます。野草好きな私には、「異常に馬鹿でかい花」の印象が強く、どちらかといえば苦手です。新田次郎の「芙蓉の人」で描かれた、切ないほどに夫を支える妻の気高さのイメージとも対極にある感じがします。

一日花ですが次々と新しい花が咲きます。夏から秋まで長期間楽しめます。花弁は浅い皿状に広がって互いに重なるため円形に見えます。花色は赤、桃、白等に濃淡の変化があり、中心部は通常濃色になっています。

また、ハイビスカスなどの同属の他の種でも見られるように、花の中央には非常にユニークで、ブラシ状の突き出たものがあります。これは、おしべとめしべの集まりで、多数のおしべが集まって筒状になり、めしべを包んだ状態になっています。めしべはおしべより長く突き出て、先端には5つの柱頭があります。

葉は、フヨウの場合、ふつう3つか5つに裂けますが、アメリカフヨウは裂け目の少ない卵形です。草丈は1mくらいにもなります。

この種は多数の種の交配種からなる園芸品種で、いろいろな形態が栽培されています。なかには花弁の重なりが少なくフヨウやタチアオイと似た形状の花をつけるものもあります。少し遅れて、同じ場所にはモミジアオイ（写真下右）の深赤色の花も咲くことでしょう。花の形も異なり、葉は掌状に深く避けているので、容易に区別がつけられます。



冬には地上部が枯れてしましますが、地下の根は越冬して翌年また芽吹いて花を咲かせます。やや乾燥した場所でも栽培されますが、もともとの生育地が湿地なので、湿った場所や少し根が水につかるような場所でも生育可能だそうです。

フヨウは低木であるためモクフヨウ（木芙蓉）といい、多年草のアメリカフヨウをクサフヨウ（草芙蓉）と呼ぶことがあります。